

教科外の教育活動を含めた研修

昭和52年度研修事業計画

県内、小学校、中学校、高等学校の先生がたの指導力の向上をめざして、本年度も別表に示すような研修講座が教育センターで開かれることになっている。

本年度の研修講座の主な特色としては、第一に、教育庁各課主催の研修会等を考慮し、講座数や研修人員の適正化を図ったこと。第二に、小学校の各講座に、特別活動又は教育相談を組みこんで、教科の研修とともに教科外の教育活動に関する研修もできるようにし更に、下学年・上学年というような対象の明確化を図ったこと。第三には、中学校の特別活動、教育相談の講座を一講座から二講座にし、ここでも教科外の教育活動に関する研修ができるようにしたこと、第四には、高等学校の各講座に、生徒指導又は教育相談を組みこんで、教師の教職教養の向上が図れるようにしたこと。などがあげられる。

要するに、従来の教科中心の研修から、学校における教育活動のさまざまな分野にわたる研修をも含めた教科研修の方向で、講座の編成を考えてみたということである。

全員が宿泊して研修するたてまえの教育センターとしては、宿泊施設等についても年々改善を加え、研修期間を快的に過ごしてもらえよう、という努力したいと考えている。

小・中・高共通

No.	講座名	主 内 容	対 象	年 間 員
1	学校経営(A)	・教育目標の設定と具現化 ・学校教育上の諸問題 ・学校経営と教育課程の管理 ・現代教育の課題 ・学校経営と教育法規 ・学校評価 ・学習理論と評価管理 ・教師の専門性 ・主題研究	小・中・高	15 10 5
	学校経営(B)	・学校経営と教育目標・学年学級経営 ・教科経営 ・研修組織と校内研修のすすめ方 ・現代の学習理論 ・生がい教育と学校教育 ・教育工学 ・評価管理 ・主題研究	教 頭 小 中 教 務 主 任 等	16 13 18
2	教育研究法	・教育研究法 ・教育調査法 ・教育統計法 ・授業研究 ・学習理論と教育方法 ・主題研究	小 中 小 堅 教 員	14 18
3	生徒指導	・生徒理解の理論と方法 ・中学校・高等学校教育の諸問題と生徒指導	中 高 生徒指導主任	30 30

小 学 校

No.	講座名	主 内 容	対 象	年 間 員
1	教育工学	・教育方法の改善と教育工学 ・小学校における授業システム化の手だて ・教育機器の活用法と教材製作実習(OHP・VTR・シート式磁気録音機)	視 聴 覚 主 任 ク ラ ス	60
2	国 語	・(特別活動または教育相談) ・教材研究のすすめ方(教材分析と指導計画の組み立て方) ・(教育相談または特別活動)	下 学 年 担 任 上 学 年 担 任	40 40
3	社 会	・(特別活動または教育相談) ・教材研究のすすめ方 ・目標内容分析 ・学習指導案の作成 ・T P の製作と活用 ・(教育相談または特別活動) ・野外調査	下 学 年 担 任 上 学 年 担 任	40 40
4	算 数	・(特別活動または教育相談) ・教材研究のすすめ方 ・T P の製作 ・(教育相談または特別活動)	下 学 年 担 任 上 学 年 担 任	40 40
5	音 楽	・低学年における音楽指導のあり方 ・平易な旋律の伴奏法 ・導入期のたて笛の指導 ・発声と歌唱法 ・(教育相談) ・小学校における音楽科の教科経営について ・編曲法(小アンサンブル) ・教育機器の活用 ・アンサンブル法(効果的な楽器の編成) ・(教育相談) ・(特別活動) ・授業における楽器の奏法とその指導(リード楽器・たて笛・打楽器) ・発声と歌唱法 ・音楽と身体表現	低 学 年 担 任 音 楽 主 任	25 25 25
6	図 画 工 作	・図工の問題点と指導 ・木でつくる(一枚の板から) ・紙でつくる(風車、空とお月ばん) (特別活動)	一 般	75
7	体 育	・(特別活動) ・学校生活と体力づくり ・授業分析の理論と方法 ・授業研究 ・保健指導と保健管理 ・(教育相談)	下 学 年 担 任 上 学 年 担 任	30 30
8	理 科 移 動	・基本的な実験・観察とその指導法(A・B・Cの各領域)	女 子 教 員 一 般	200
	理 科 (A)	・野外研修 ・理科の指導法と実験内容の検討 ・新しい実験法のくふう ・(特別活動)	理 科 主 任	24
9	理 科 (B)	・(特別活動) ・基本的な実験、観察の指導法 ・野外研修	一 般	24
	理 科 (C)	・実験教具の製作と実験、および実験機器のとり扱い方 ・(教育相談)	一 般	30
10	家 庭	・洗たくに関する実験実習 ・日常食品に関する調理実験実習 ・快適な住まいの条件 ・(特別活動または教育相談)	一 般	24
12				857